

第4回 実践学体験トライアル講座

東京大学大学総合教育研究センター 大学発教育支援コンソーシアム推進機構が主催する「第4回 実践学体験トライアル講座」を実施いたしました。

大学側と教育界が実践知を軸に新しい高大連携の可能性を模索し続けることを目指すものとして、これまでに、第1回「免疫とは何か」、第2回「ゆっくり落ちるパラシュートづくり」、第3回「光マップ」を開催してまいりました。今回は、都市の文化研究を題材に、高校生と大学生、大学院生や研究者が一つの課題をめぐって一緒に話し合って考える、実践学を中心とする新たな学ぶ合いの体験企画を実施しました。

- 日 時 平成28年3月12日（土）10:00～16:00
- 場 所 東京大学本郷キャンパス 福武ラーニングスタジオ
- 参 加 者
 - ・東京都立高等学校、埼玉県立高等学校の生徒40名
 - ・東京大学の大学院生・研究者ら約15名
 - ※専攻は、文系・理系などさまざま
- プログラム
『『東京』から近現代をさぐる ―都市の文化研究を通して―』

浅草とは、銀座とはどういう街だったのか？

なぜ人々の集まる街は浅草から銀座へと変わったか？

そして新宿、渋谷とは？

都市の文化研究をテーマとして、東京のいくつかの街に焦点をあてながら、その街が担ってきた時代と文化について掘り下げ、そこから現代という時代を見つめ直してみます。

当該分野の専門家、若手研究者と話し合いながら、考えを広げ、深めていきます。

- 9:15ー 受付
- 10:00ー10:10 挨拶、趣旨説明
- 10:10ー10:25 都市の文化研究へのいざない
東京大学大学院情報学環 教授
吉見 俊哉
- 10:25ー12:10 〈都市の文化研究を味わう〉
(高校生×大学生・大学院生・研究者 合同知識構成型ジグソー)
近代の都市の文化について
「なぜ人々の集まる街は浅草から銀座へと変わったのか」
- 12:15ー13:15 昼休み

13:15-16:10

〈大学での「文化研究」を疑似体験する〉

「文化を研究するとは、どういうことか」

当日の様子

【午前の活動】

(1) 吉見教授の導入講義

「都市の文化研究へのいざない」として、『都市のドラマトゥルギー』の著者でもある吉見教授から、都市の文化研究について、高校生とのやりとりを通して、お話しをしていただいた。



(2) 「なぜ人々の集まる街は浅草から銀座へと変わったか？」というテーマで、高校生と大学生・大学院生たちが、知識構成型ジグソー法による話し合いに挑戦。

①最初の問い

「なぜ人々の集まる街は浅草から銀座へと変わったか？」



②エキスパート活動

A 浅草という盛り場

B 銀座という盛り場

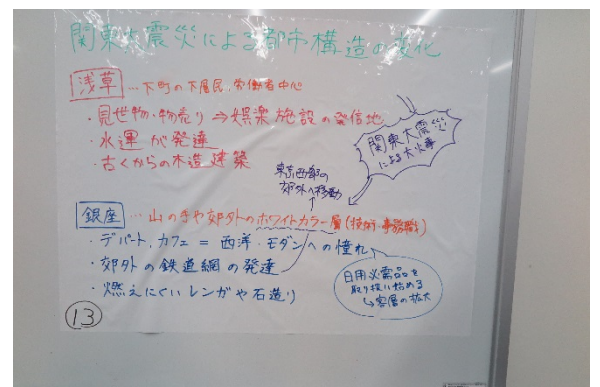
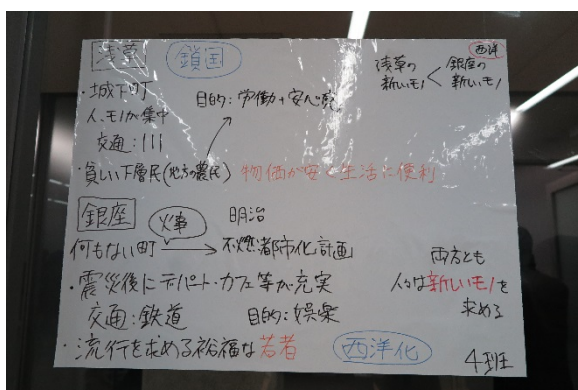
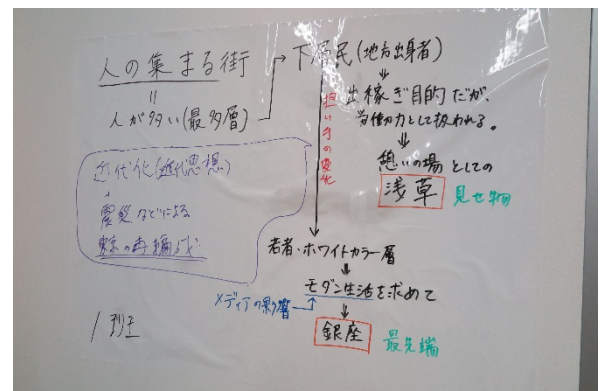
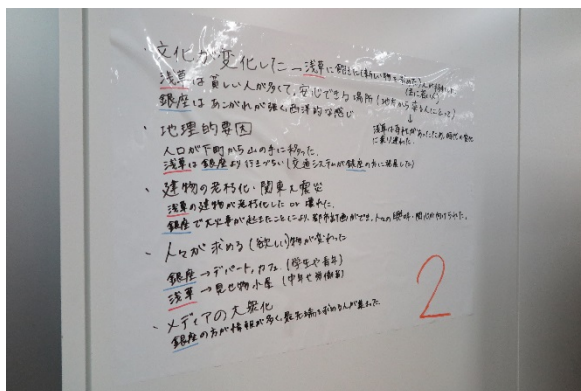
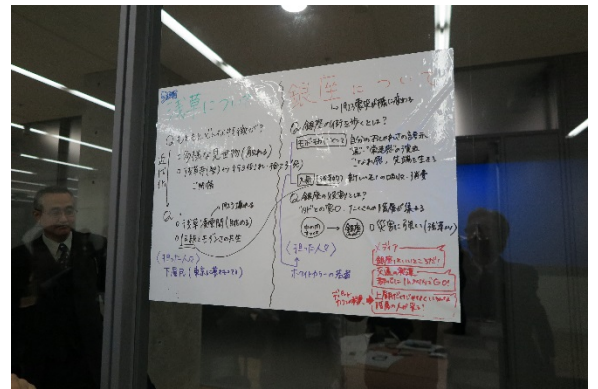
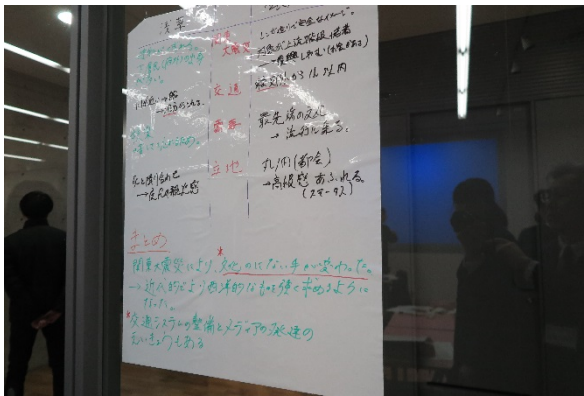
C それぞれの盛り場を担った人々

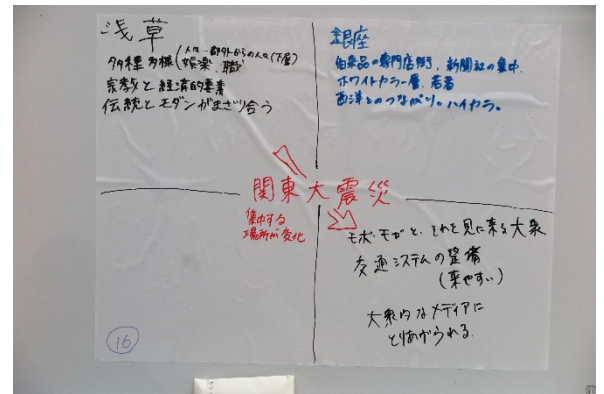
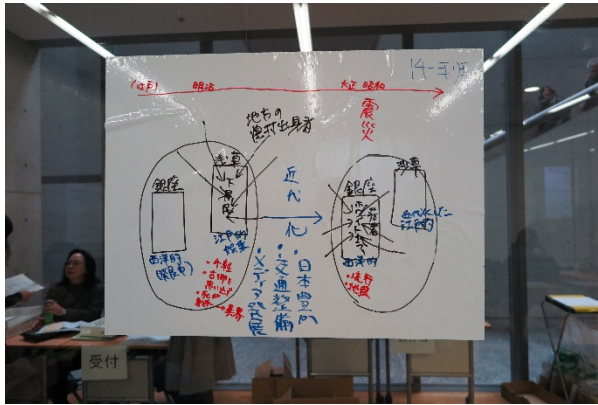


③ジグソー活動→ポスター作り



④クロストーク（ポスターセッション）





ポスターセッションを終えて

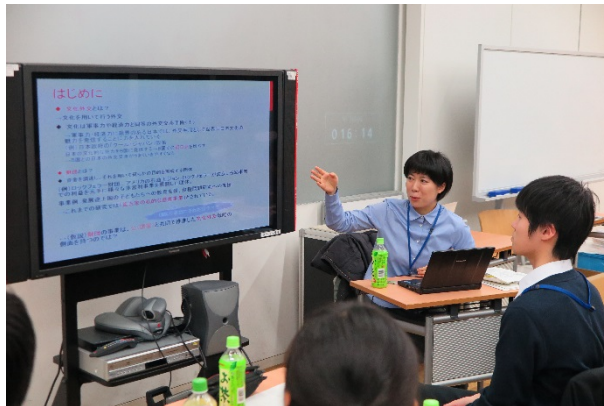
吉見教授から、「高校生のレベルの高さに感動した」とのお言葉をいただき、社会学を深めるためには、「人々の意識の変化」を見逃さないことが大切で、今回のテーマに関しては、「盛り場＝書物」として考えてみると、東京全体が大きな図書館のようなものとして考えることもできるなどの説明をしていただいた。



【午後の活動】

(3)〈大学での「文化研究」を疑似体験する〉

- ① 最初の問い「文化を研究するとは、どういうことか」
- ② 吉見ゼミの研究者から自分の研究の紹介



③ グループごとに研究をデザインする

【研究デザインの例】

- ・「クールジャパン」をヨーロッパ or アジアに発信するために日本が取るべき文化戦略について研究を進めるにはどのようなことを調べればよいか。
- ・東京で働く若いフリーターたちの生活状況を解明する。
- ・不安定な収入や職であっても東京で働き続ける理由を解明する。

- ・情報通信技術が発達した現代でも「通勤」が無くなっていない理由。
- ・東京オリンピックの開催が人々の生活にもたらす変化。



- ④ 各グループごとにテーマを決め、研究デザインを考え、発表・交流し、最優秀デザインを決める



- ⑤ 最優秀デザインの発表・交流

最優秀デザインのグループの代表生徒が発表。みな自信にあふれた発表でした。
その後、研究者からコメントをいただきました。





⑥ 最後の問い

最初に考えた「文化を研究するとは、どういうことか」をもう一度、活動後に考えます。
グループの答えの一例として以下のようなものがあがりました。

- ・文化は人による影響を受けている。
- ・多面的に見ることが大切。
- ・その時代の人々の行動や考え方が反映される。
- ・集団に焦点を当てることが大切。

おわりに

今回の東京大学主催「第4回実践学体験トライアル講座」は、第3回までと同様、従来の高大連携によくみられる「教授の講義を高校生が大学生と一緒に拝聴する」という形式ではなく、高校生と大学生・大学院生らが、専門の研究者からの情報提供を受けつつ、お互いに話し合い説明し合うというものでした。また今回は、「研究をすることはどういうことか」に焦点を当て、高校生たちが、大学入学後に行う研究の方法についてまで学ぶことができました。

当日は大学生・大学院生や研究者、専門家など、多くの方々が参加し、大学が持つ「知のリソース」を提供いたしました。午前のジグソー活動では、まさにひとりひとりの考えを集めるとさらに素晴らしい解が導き出されることを参加者の皆さんが実感したのではないのでしょうか。午後の活動では、ひとりひとりの主体的、能動的な学びが随所に見られ、発表では、自分の考えをわかりやすく受け手に伝えることを、自信を持ってされていたのが印象的でした。

このような既存概念にとらわれない高大連携の在り方は、今後の高等学校教育とそれに連なる大学教育を考える上で、必要不可欠なものになっていくと実感しました。何より、高校生たちの生き生きした学びの姿がそれを証明しておりました。